

はじめに

日本全国に災害が多発し、「晴れの国岡山」でも7月の西日本豪雨災害では大きな被害を受けました。東区でも砂川の氾濫により浸水被害が発生、会陽の里でも初めて福祉避難所を開設し被災者を受け入れ、岡山市内では最長となる40日間開設、多くの課題も顕在化され今後も行政や他機関との協議が必要です。

指定管理運営開始から12年目となり、これまで継続してきた「利用者本位」「断らない介護実践」を評価して下さる行政・医療等の関係機関も多くなり、次々と様々な事情を抱えた方の入所相談が続く中65歳から98歳まで、自立から要介護5まで、重度化・多様化する入所者の生活を守るために、養護老人ホーム岡山市会陽の里としてのあり方の検討に、これからも全職員で取り組んでいきます。

I 「社会的弱者の最後の砦」である養護老人ホームは、今改めてその社会的役割・あり方を問われています。様々な事情を抱えた方が入所される中、今一度福祉の原点に立ち返り、養護老人ホーム岡山市会陽の里だからこそできる支援に取り組みます。

II 人権を尊重し、健全で、穏やかな、自分らしい生活の保障を目指します。

1 入所者一人ひとりの生涯支援施設として、真の自立支援を追及します。

○自立から要介護まで、全ての入所者の声と思いを聴き、心身の状況に合わせて環境を整え、徹底的に生活を支え・見守り続けます。

①全入所者中54名(70%)が要介護状態となり内要介護3～5の重度者が21名(27%)です。日常生活上の介護に加え、認知症状の進行・高次脳機能障がい等目が離せない状態の方が複数になり、十分とはいえない職員体制の中で支援員を中心に、居室変更や個々人の状態に合わせた居室内環境整備・談話コーナーの活用など様々な対応で介護を実践しました。その状況に加え、介護認定は自立で身の回りは全て自立されているが、アルコール依存症や知的障がい・発達障がい等のため常に離設の危険があり、行動が予測不可能で他者との人間関係も維持できない方も複数となり、支援の方向性を定めるため施設内での全職種参加のカンファレンスに加え、医療機関など他機関との連携を強化し対応を継続しており、今後も最優先の課題として取り組みます。

②入所者の重度化・多様化に伴い、居室で一人で安全に過ごすことが困難な方が増えました。居室以外に落ち着いて過ごせる空間が無かったため、各フロアで空間作りに取り組みましたが十分に活用できたとは言えず、次年度に向けて早急な課題です。

③入所者一人ひとりの抱える状態・状況そして事情を鑑み、相談員を中心に支援を展開してきました。

金銭・終末期(医療に関する希望、葬儀から墓まで)・地域で暮らす家族の問題まで、その幅は広く多岐に涉り困難な事例も多くありますが、入所者の生涯を見据えた相談援助を粘り強く継続していきます。

2 残存能力を活用した自立を目指し、リハビリを強化します。

日曜日に定着している「こけないからだ体操」に加え、日常生活動作の中にリハビリを組み込み、個々の状態に合わせ無理なく続けられる生活リハビリ(水分補給時の歩行推進・車椅子から椅子へ移乗・配下膳のセルフ等)を実施しました。また入所時に自転車を持参、安全に外出できるようルールを話し合い、在宅生活時と同様に外出されIADLが維持できるよう見守り支援を続けています。今後もリハビリ特化型養護老人ホームを会陽の里の売りとして実施していきます。

3 介護が必要となっても、個々の能力に応じ自立した日常生活が営めるよう必要な介護を提供します。

①昨年度より内包型特定施設となり(平均介護度 特定2.9, 養護1.7)、生活支援に加え介護を必要とされる入所者に対応しています。重度になっても、これまでの実践から得られた利用者個々人に合わせた支援を工夫し、可能な限り生活が継続できるよう努めました。しかし残念ながら持病の悪化を止めることはできず、経口摂取困難による胃ろう造設や点滴の留置・結核の発病など長期入院を余儀なくされる方や療養型病院への転院で退所となる方が続きました。胃ろう造設者への対応や看取りなど、今後の特定施設のあり方に課題を残しました。

②看護師体制も充実し、日常のラウンド・バイタルチェック・内服薬の管理・入浴後の爪切りやスキンケアの実施・主治医との小まめな連携など、入所者の変化に対応しました。課題発生時には、支援部・栄養部・看護師が相談しながら、食事形態の小まめな変更・高カロリー食の提供等工夫を重ねました。

III 専門性・創造性にあふれ、元気で働き甲斐のある職場作りを目指します。

1 全職員が接遇の向上を目指し、元気で、信頼できる職員集団を目指します。

接遇委員会中心に施設全体で取り組みを継続しましたが、残念ながら十分とは言えず、日々の業務の多忙さを理由とした不適切な言葉使いがや職員同士の接遇への注意など課題が多く残りました。介護のプロとして「言葉・態度・表情」の介護接遇の改善と向上を目指します。

2 すべての職種が、職務遂行に必要な知識・技術を向上させ、専門性を高めます。

事業所全体の学習会では、講義形式の座学に加えグループ討議を織り交ぜ、参加者が発言する学習会の開催を心掛けました。また外部への研修参加も体制を整え可能な限り参加を進めましたが、業務の多忙さから以前よりも低迷したことは反省すべき課題です。11月の法人職員研究発表大会では、数年振りに、管理栄養士が栄養部の様々な実践を発表したことは大きな前進でした。

3 全職員が「私の宣言/個人目標」を掲げ、達成できるよう、人材育成に努めます。

4月に全職員が「私の宣言/個人目標」を立て総括会議で宣誓発表を行いました。しかし、その後の育成面談・評価が一部の部署でしか実施できなかったことは大きな反省です。職種・雇用形態を問わず、人を育てることを事業所の目標として、次年度も取り組みを継続します。

職員育成を課題に掲げている支援部では、新入職員の育成に取組み、プリセプター配置・送りノート、評価用紙を作成し試行開始、業務マニュアル、チェック表作りも進行しており、大いに期待できます。

4 創造性・独自性の溢れる企画を立案し、職場全体で運営します。

①生活支援部では、昨年より継続してフロアで年間行事計画を作成、全職員が行事計画書を2回以上立案し実行しました。日常生活を活性化し楽しみのある施設生活の提供を目標に多彩な企画が催され、入所者も職員も一緒に楽しめる時間を共有できました。年度内に主任異動後の配置が適わず、フロアリーダー体制での運営となりました。現場の業務もこなしながら主任業務を2人のリーダーで分担、会議で情報を共有しながら、各フロアの常勤職員にも業務を分担し各自責任感を持って携わることで、リーダーを中心に皆で運営を進めました。その中で、入浴業務の改善・フロア会議のあり方と時間の変更など成果を残すことができました。

②昨年度運営の厳しかった栄養部は、管理栄養士・調理員が協力し安定した運営に努めました。重度化にも小まめに対応し個別対応が充実。誕生日メニューやリハビリクッキングも再開し入所者から大変好評です。職場会議で議論し、毎朝のミーティング開始・清掃業務の変更など業務改善も進み、更なる向上に向けて大いに期待できます。献立には新メニューも登場、「ご飯が美味しくなったよ」と笑顔で話してくださる入所者の声は、何にも変えがたい喜びです。

③相談部では、計画作成担当者の異動に伴い新しい相談員を配置しました。日常の相談援助から金銭管理をはじめとする事務業務も、利用者の多様化に伴い更に煩雑となりましたが、役割を分担し常に相談しながら運営、相談員独自の企画も実践しました。入所者の訴えに真摯に耳を傾ける相談員の姿は誇らしく感じられるものでした。

④事務部では4月より新しい事務員が着任しました。十分な申し送りが無い中、これまで不十分であった帳票の整理・小口現金の流れを確立、財務の建て直しに加え、労務管理面でも本部との連携を強化し職員に適切な対応を実施してきたことで、他部署職員の信頼を回復させました。また宿直員は全員で協力し、本来の宿直業務の遂行に加え年間を通して園庭や施設の美化・修繕などに努め、事務部の運営に大きく貢献しました。

⑤養護老人ホーム岡山市会陽の里のあり方を検討する中で、多くの職員より「業務改善」の必要性和「各部署の連携強化」が提案されています。次年度に向けて、全ての部署の重点目標とします。

IV 経営の安定化に取り組み、適正な指定管理運営を継続します。

1 事業計画に基づき、指定管理に係る経費を明確とし適切に取り扱います。

①養護老人ホームの指定管理料収入は、長期入所者月平均 76.7 名(前年比 98.7%)、平均入所者数は

上期 76.1 名、下期 77.2 名でした。退所者 14 名(死亡 7 名、入院長期 4 名)入所者 12 名(在宅 6 名、病院 3 名(内精神科 2 名)、他施設 3 名、緊急措置 3 名)、1 億 4 千 5 百万円(前年比 100.2%)でした。また 40 日間開設した福祉避難所は 72 万 4 千円の経費収入がありました。事業経費は 1 億 4 千 7 百万円(前年比 98.7%)、生活支援員の退職後の補充が適わず、人件費が 1 億 3 千 8 百万円(収益費 58.6%、前年比 97.6%)と減少しました。

②平成 9 年の開設当初からの設備であり、故障しても修繕不可能なため入替工事を提案されていた消防設備一式の更新を、岡山市が今年度事業として 3 月に実施しました。

③今年度、短期入所事業の利用はありませんでした。近年、緊急事例は公設公営の岡山市友楽園が対応されている事、松風園、報恩積善会が契約による自費利用を実施していることが短期入所の利用減の原因と推測されます。

2 毎月の会議で、経営状況を正確に伝え、議論します。

毎月の管理会議で事業活動計算書・経営天気図を確認し法人全体の経営状況を共有し議論しました。その結果を職責が各職場会議で報告し、全職員への伝達に努めました。ただし各職場においての議論が十分とはいえない点もあり、今後の課題です。

3 介護の必要となった方には特定事業所契約を行い、介護保険サービスを提供します。

特定利用者月平均 35.2 名(前年比 103.8%)平均介護度 2.9 と利用者数は若干増加しましたが、介護保険収入は 8 千 9 百 5 十万(前年比 98.4%)と減少しました。年間入院延べ人数 46 名(前年比 85.2%)と減少しましたが、平均入院日数は 30.0 日(前年比 102.7%)と増加、加えて 1 月以降の重度者の入院の増加及び長期化が特定契約者の減少に繋がりました。相談部(計画作成担当者)、支援部で入所者の状況を確認・相談しながら、身体介護が必要になっている方については特定契約の準備を進めていますが、今後は状態変化にあれば早めの変更申請や契約準備を進める必要があります。

V 地域に開かれた施設運営を進めます。

1 地域との相互交流・地域の関係機関と協働を深めます。

昨年度受賞した「岡山市協働まちづくり大賞」の関係で、山陽放送と oni ビジョンの取材を受け、映像がテレビ放送されています。取材に際しては、雄神小学校、地域の皆様にも多くの協力を頂き、地域との繋がりを改めて実感しています。

2 友の会活動を展開させるために、班活動・ブロック活動に取り組みます。

会陽の里ブロック活動は 2 ヶ月に 1 回の定例会を継続しました。10 月には「福祉避難所について」報告を兼ねて学習会を実施、会員以外の方からも参加があり、災害に対する地域の思いや施設に対する大きな期待を感じました。

VI 公設施設として、地域の災害時の拠点施設となれるよう取り組みます。

1 雄神地区の一次避難所としての役割を果たします。

6 月 28 日から 7 月 8 日にかけて台風 12 号や梅雨前線の影響で降り続いた豪雨は西日本を中心に甚大な被害をもたらしました。東区でも南古都や平島地区で浸水被害が発生、東区役所からの要請を受けて 7 月 7 日～8 月 16 日まで福祉避難所を開設、6 名の避難者を受入れ介護支援を実施しました。避難所閉鎖後は緊急入所となった 3 名の支援を継続、台風 20 号・21 号接近に伴い地域からの自主避難者計 8 名を受入れました。発災直後は、行政や地域包括支援センター等関係機関との連携・役割分担が定まらず、情報が入り乱れ混乱しました。この度の災害を教訓として、入所者と職員そして地域の生命・安全を守るために何ができるか、何をすべきかを再考し、災害に強い施設作りを進めます。

2 地域や近隣保育園と合同で、避難訓練を計画し実施します。

今年度は活動ができませんでした。次年度は新たな計画を予定します。

VII 社会保障の充実に向けて、現場発信・訴えを積極的に行います。

1 社会保障や平和への取り組みを促進し、民医連の研修会等に参加します。

平和ゼミナールに生活支援部から職員が 1 名参加しました。その学びを共有するため施設内で報告会を開催しました。

養護老人ホーム岡山市会陽の里 2019年度 方針

様々な事情を抱えた方が入所される中、今一度福祉の原点に立ち返り、養護老人ホーム岡山市会陽の里だからこそできる支援に取り組みます。

※「福祉の最後の砦である生涯支援施設」

「特定施設の機能を活かし、それぞれの入所者に適切な介護支援サービスの提供できる養護老人ホーム」を目指し、**4点の重点目標**を定めます。

I 人権を尊重し、健全で、穏やかな、自分らしい生活の保障を目指します。

1 入所者一人ひとりの生涯支援施設として、真の自立支援を迫ります。

○ 自立から要介護まで、全ての入所者の声と思いを聴き、

心身の状況に合わせて環境を整え、徹底的に生活を支え・見守り続けます。

※**入所者が、日々落ち着いて過ごせる「居場所作り」に努めます。**

2 残存能力を活用した自立を目指し、リハビリを強化します。

3 介護が必要となっても、個々の能力に応じ自立した日常生活が営めるよう必要な介護を提供します。

II 専門性・創造性にあふれ、元気で働き甲斐のある職場作りを目指します。

1 全職員が接遇の向上を目指し、元気で、信頼できる職員集団を目指します。

2 すべての職種が、職務遂行に必要な知識・技術を向上させ、専門性を高めます。

※**「疾患・障がいの学び」を深め、利用者理解を進め対応実践に活かします。**

→学習会の開催・外部研修への参加・他施設見学 等

3 全職員が「私の宣言/個人目標」を掲げ、達成できるよう、人材育成に努めます。

4 創造性・独自性の溢れる企画を立案し、職場全体で運営します。

※**全ての部署で「業務改善」に取り組みます。**

→業務優先になっていないか？業務改善を進めながら、利用者本位の実践を目指します。

5※**他職種協働・各部署の連携強化 「チーム会陽」創りを進めます。**

→全ての部署・職種が、業務内容と役割を明確にします。

全ての職員が、相互に業務内容を理解し、協力・分担・助け合い、共に実践します。

III 経営の安定化に取り組み、適正な指定管理運営を継続します。

1 事業計画に基づき、指定管理に係る経費を明確とし適切に取り扱います。

2 毎月の会議で、経営状況を正確に伝え、全職場・全職員で議論します。

3 一般型特定施設の機能を活かし、介護の必要となった方には介護保険サービスを提供します。

○ 稼動目標 長期入所 78名 内特定 35名以上

IV 地域に開かれた施設運営を進めます。

1 地域との相互交流・地域の関係機関と協働を深めます。

2 友の会活動を展開し、班活動・ブロック活動に積極的に取り組みます。

V 公設施設として、地域の災害時の拠点施設となれるよう取り組みます。

1 雄神地区一時避難所・福祉避難所として、地域・行政と協働で果たすべき役割を遂行します。

2 防災マニュアルを適切に見直し、BCP(事業継続計画)を策定します。

VI 社会保障の充実に向けて、現場発信・訴えを積極的に行います。

1 社会保障や平和への取り組みを促進し、民医連の研修会等に参加します。